



問一 心情理解の問題です。登場人物の言葉や行動から心情を考える必要があります。ここでは輝の、お母さんへの思いを問われているので、輝の言葉の中に「お母さん」が入っているようなものを探してみると、「でもさ、お母さんを傷つけたらどうしようって」という言葉が見つかります。ここから解答が選べます。

問二 身体にまつわる慣用句表現の問題です。解答はⅠがまわりの「目」を気にする、Ⅱは「手」のこんだ、となりますが、これらは本来の目や手の意味ではなく、違った意味になるので注意が必要です。

問三 心情理解の問題です。問一と同じく、登場人物の言葉や行動に注目して考えます。ここでは、傍線部②の直後に同じようなことを再度言われた輝が再び「うん」と答えていますが、ここでは「自分の気持ちをどう言い表したらいいのかわからなくて」と書いてあります。この、言い表せない気持ちをなんとか言葉にしたところが「みんなに笑われたのは」以下の言葉となっています。つまりこれが心情の表現されたものだと考えられ、解答が選べます。

問四 語句の意味を問う問題です。特に「おもむろに」は間違いやすい言葉です。ですがこれはおじいちゃんの行動であり、またその後のおじいちゃんの言葉の調子を考えあわせると、選択肢から合うものを選ぶことができます。

問五 表現効果を考える問題です。このような問題は、まず、選択肢の中から、本文にないこと、本文に合わないことを含んでいるものを探して除外していく必要があります。すると、アの「季節の変化」はまだ起きていないことが分かりますし、イの「輝が心を閉ざす」というのはおじいちゃんに相談している場面なので該当しません。また、エの「美しい花が咲く」ということについては本文に触れていないため、選択できません。残ったウについては、本文の最後に輝の成長が描かれており、この表現の内容に合っていると考えられます。

問六 読解の問題です。傍線部⑤の表現は直前の内容からおじいちゃんが何かを「なつかしい」と思っている様子であると分かります。これについて輝がおじいちゃんに尋ねているので、その返答から選択肢が選べます。

問七 文章の流れをつかむ問題です。問題となっているおじいちゃんの言葉の後に、「おじいちゃんは、ぼくを見ながらぼくの中にお父さんを見ている」と輝が感じていることが書かれています。つまり問題の言葉はそう感じさせるようなものでなければなりません。よって二人の同一性について述べた解答が選べます。

問八 二人の人物の話し合いを通して考えをまとめ、表現する問題です。まずA～Cまでを二人の言葉を参考に考えます。問七から、輝のお父さんが、幼いころ輝と同じような考えを持ったことが分かっていますので、そこからA、Bを探することができます。Cは、直前に本文の一部が抜き出されているので、それに続く部分が解答であると分かります。この三カ所を埋めてみると、Aのように「大人になる」ことは親である人にとってはCのように「うれしい」と思えることであるということがわかります。それをまとめてDとして解答します。Dの直前に「理由がわかった」と言っていることから、Dは理由を表すような文体にしましょう。

## 二

- 問一 2行後の「想像しなさい」という言葉に注目すれば解けますが、時間があれば、ぜひ文章全体を読む書として読み直し、傍線部の筆者の考えが文章全体と関連していることを確認してみてください。細部にばかり気を取られずに文章全体を念頭に置くことも、読解では必要です。
- 問二 「色めき立つ」という言葉は、普段あまり目や耳にすることがないかもしれません。語彙力を付けるためには、こまめに辞書を引く、流行の小説だけでなく少し古い時代の小説や新聞など、幅広い文章に触れる、といった地道な努力を欠かさないようにすることが大切です。
- 問三 前の行に描かれている、パンを「両脇から～軽く押さえ」る機構について問われています。空欄Ⅰの4行後で、この機構について再び筆者が説明しています。問三に限らず、文章を読んでいるときに「問い」が出てきたら、後に「答え」に当たる部分が出てくるのではないかと予想しながら読んでいきましょう（「答え」が書かれていない場合も当然あります）。
- 問四 傍線部のテーマは「トースター」についてです。また、「ふるまい」とは、行い、動作のことです。これを踏まえて、傍線部を「トースターがパンを焼く動き」のように言い換えます。なお、「パンが焼けること」や「学生がトースターを扱うこと」といった解答は、「トースター」をテーマにした解答ではないので、不適切です。
- 問五 パンの表面と内部の状態の対比を意識して、適切な選択肢を選びます。ところで、本文に出てくるタイプのトースターは、今はあまり多く使われていないかもしれません。このようなタイプのトースターについての知識がなくても設問は解けますが、時間があれば、どんな形のトースターなのかを想像してみる、あるいは実物を見てみるとよいでしょう。国語は、普段の生活とつながっています。
- 問六 3行前の「中学の理科で習ったはずです」だけに注目してしまうと、エと誤ってしまいます。けれども、「分解ワークショップ」の目的は、「中学校の知識の復習」ではありませんでした。筆者がなぜパンを焼いたのか、そしてパンを焼いているときに学生たちはどんな反応をしていたかを考えてください。また、本文の初めから数えて4行目「身近な電気器具を分解し」から始まる形式段落もヒントになります。
- 問七 「味を占める」とは、「一度うまうまいった快さが忘れられず、もう一度うまうまいくことを期待すること」といった意味を持つ慣用句です。この意味を踏まえ、傍線部の前後の内容と照らし合わせると、アが正解となります。
- 問八 空欄の前後が落ち着いて読めていれば、正解はすぐにわかります。穴埋めができたなら、埋めた後の本文を改めて読み直し、答えが正しいかチェックする習慣を付けましょう。
- 問九 7行前の筆者のセリフに注目します。抜き出し問題は、写し間違いに気を付けましょう（特に問一のように、比較的多い字数を抜き出す場合に注意）。

## 三

- 漢字そのものの知識だけでなく、文の意味を理解して、その文に合った正しい漢字を書けるようにしましょう（例、③仏閣）。また、細かい部分まで気を抜かず丁寧に書く練習も必要です（例、⑤旗）。